



地域連携 学生フォーラム in 大阪 2018

報告集

Student Forum in Osaka

主催：特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪

はじめに

特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪
地域連携部会

本フォーラムは、会員大学の学生が地域と関わりながら取り組む研究活動やフィールドワーク、ボランティア活動等の内容について発表し交流することを目的に、年に一度開催しています。このような発表交流会を通じて、学生の地域連携に取り組む意識の高揚や自己点検を促進するとともに、地域との連携を行ううえでの配慮ポイントやノウハウを会員大学や自治体関係者等で共有し、会員大学の地域連携活動を醸成する機会としています。

5回目を迎える今回は、「出会い×成長」をテーマとし、5大学14名の有志学生が本フォーラムの企画・運営メンバーとしてミーティングを重ね、「学生による、学生のためのフォーラム」が実現しました。

発表については、会員42大学に公募し、エントリーのあった7大学・1短期大学8事業全てに発表いただきました。発表方法に関しては、初の試みとして午前には口頭発表を、午後にはポスター発表を行いました。また、発表の合間には、来場者同士によるディスカッションを行い、発表者と来場者の積極的な相互交流の場を設けました。これらの新たな試みはすべて、学生企画メンバーにより企画されたものです。

これらの発表やディスカッションを通じて、今回参加した学生にとっては、大学の特性や地域固有の事情を踏まえたユニークな「地域連携」が体現されていることを互いに理解し、それを自らの活動に応用、工夫することにより、実のある地域連携活動への展開に繋げる契機となったことと思います。

本事業は次年度以降も継続的に開催することとしており、発表された内容を大学コンソーシアム大阪のホームページ等で公開するなどして学生が取り組む地域連携活動を集約したデータベースを構築し、広く共有、活用するとともに、情報発信に繋がりたいと考えます。

この報告集は、8事業の発表を取りまとめたものであり、会員大学や関係各位の地域連携活動にお役立ていただければ幸いです。なお、発表交流会開催に際しまして、ご協力いただいた関係各位におかれましては、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

平成30（2018）年12月

地域連携 学生フォーラム in 大阪 2018 次 第

◆日 時：2018(平成30)年10月14日(日) 10:00-17:30

*交流茶話会：16:00-17:30

◆会 場： 近畿大学 実学ホール (東大阪市小若江3丁目4-1)

	時 間	発表大学	内 容		
口頭発表	10:00-10:05	開会あいさつ(趣旨説明・推進委員 紹介)			
	10:05-11:05	口頭発表①	近畿大学 総合社会学部 総合社会学科 環境・まちづくり系専攻 田中ゼミ	黒川の里山における地域交流を目的とした古民家カフェの運営	
		口頭発表②	大阪女学院大学、 大阪女学院短期大学	玉造地区商店街活性化プロジェクト	
		口頭発表③	摂南大学 PBLプロジェクト	伝えよう、星の神秘と科学「星の町☆かたの」プラネタリウム復活を目指して	
	11:05-11:35	ミニ交流タイム			
	11:35-11:45	休憩			
	11:25-11:45	口頭発表④	大阪女学院大学	教育インターンシップ：小学校と中学校	
	11:45-12:05	口頭発表⑤	追手門学院大学 経営学部 村上喜郁ゼミ	学生による親子を対象にした食育	
	12:05-12:25	口頭発表⑥	大阪成蹊大学 芸術学部 造形芸術学科 表現教育コース	美術を介した活動によって地域のポダグレスな関係を築く	
	12:45-13:15	ミニ交流タイム			
	13:15-14:15	昼食休憩			
	ポスター発表	14:15-14:45	ポスター発表①	近畿大学 総合社会学部 総合社会学科 環境・まちづくり系専攻 田中ゼミ	黒川の里山における地域交流を目的とした古民家カフェの運営
			ポスター発表②	摂南大学 PBLプロジェクト	伝えよう、星の神秘と科学「星の町☆かたの」プラネタリウム復活を目指して
ポスター発表③			大阪電気通信大学 工学部 環境科学科 ベリーベリープロジェクト	学術的な食品機能性研究と地域をつなげ新産業の創出と地域活性化を行う	
14:45-15:15		ポスター発表④	大阪女学院大学、 大阪女学院短期大学	玉造地区商店街活性化プロジェクト	
		ポスター発表⑤	大阪市立大学 COC事業 2017年度地域実践演習Ⅲ 受講生、その他	紀伊半島における地域再生の現場に触れる 中山間地域の課題と未来	
		ポスター発表⑥	大阪女学院大学	教育インターンシップ：小学校と中学校	
15:15-15:35		推進委員からの講評・閉会あいさつ			
15:35-15:55	会場レイアウト変更				
16:00-17:30	交流会・茶話会				

発表概要

学生発表①

活動テーマ	黒川の里山における地域交流を目的とした古民家カフェの運営
活動場所	兵庫県川西市黒川エリア
連携先	近畿大学 総合社会学部 田中晃代研究室
活動主体	近畿大学 総合社会学部 総合社会学科 環境まちづくり専攻 田中ゼミ

1. 活動概要

兵庫県川西市黒川地区は、日本一の里山と呼ばれる魅力ある土地である。近くには、妙見山に通じるケーブルやリフト、キャンプ場といったレジャー施設の整備もされており、一年を通じて多くのハイカーが訪れている。また、茶の湯などにも用いられる良質な菊炭の生産が今なお行なわれているなど、伝統的な地場産業もみられる。このように、黒川には数多くの魅力があるものの、現在では少子高齢化が進み、空き家も増えつつある。また、地元の小学校も休校となり、現在は公民館として利用しながら、復活のときを待っている。我々は、所有者の協力のもと、空き家となっている古民家を利用し、学生と地域住民、市民、この地域にやってきた観光客にとっての交流の場となる古民家カフェを開催している。この古民家カフェでは、菊炭でのコーヒー豆の焙煎や、釜での炊飯といった地元の素材を生かしたメニューを用意しており、今後は地域の人に参加できるようなイベントも企画している。

2. 年間計画

平成30年（2018年）5月から11月までの毎月第1土曜日と第3日曜日を予定（今後変更の恐れあり）

3. 活動成果

昨年度の開催では、地域住民の方々や観光客といった多くの人に訪れてもらうことができ、また他大学の方とも共同でイベントなどを行なうに至った。また、カフェの活動を記事として取り上げていただいたこともあり、活動の知名度が上がってきた。

4. 地域からの評価

活動が現在進行形で結果が出ていないため、記述不可。

5. 参考WEBサイト

<https://mainichi.jp/articles/20170723/ddl/k28/040/214000c>

6. 活動メンバー

総合社会学部 3年 藤田恭平 榎崎梨奈 清水美里 森山達天喜
同学部 4年 寺村林太郎 遠井大輝 丸山修吾 谷口亮大
同学部 2年 天納明日香 若井優介 小島潤也 その他田中ゼミ多数

7. 担当教員

近畿大学 総合社会学部 総合社会学科 環境まちづくり専攻 准教授 田中晃代

8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	近畿大学 東大阪キャンパス	
所属先・職名	総合社会学部 総合社会学科 環境まちづくり専攻 准教授	
氏 名	田中晃代	
連絡先	電 話	06-4307-4207
	メー ル	t-akiyo@socio.kindai.ac.jp

9. 活動の様子





すみっこカフェ in 川西市黒川

近畿大学 総合社会学部



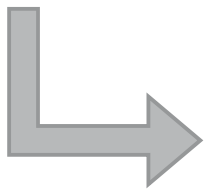
川西市黒川とは…。

- 「日本一の里山」で有名★
- 自然豊かで多くのハイカーが足を運ぶ。
- 昭和20年に建設された日本庭園が残る。



 川西市黒川とは…。

- 空き家が目立つ…。
- 地域の人々が集まれる場所の欠落…。
- 魅力発信の場が少ない…。



黒川の魅力発信
地域の人々の憩いの場提供
を目指す！

 **そこで生まれたのが…**

すみっこカフェ 



すみっこカフェとは…。

黒川の魅力発信のために
生まれた古民家カフェ

- 近畿大学の生徒が運営。
- 毎年7月～11月 月2回開催中！！
- 焙煎したコーヒーや無花果カレーなどでおもてなし☆



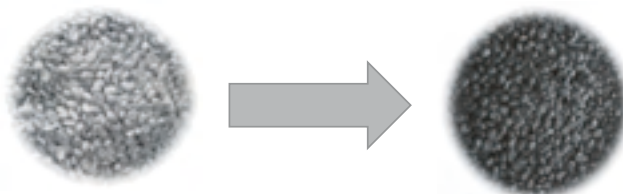
すみっこでの活動① ～企画📝～

- 黒川の魅力を伝えるにはどうすればいいのか真剣に議論
- ロゴ作成やチラシも自分たちで作成中！
- 新しいメニュー開発も！？



すみっこの活動② ～コーヒーの焙煎☕～

- ・ みさご珈琲さんの豆をじっくり焙煎。
(意外と重労働!?)
- ・ 店長が研究に研究を重ねたドリップで
最高の一杯を提供しています。



コーヒー豆はここまで焙煎
合言葉は...「阪神電車の色になるまで!!」

すみっこでの活動③ ～音大生による演奏会♪～

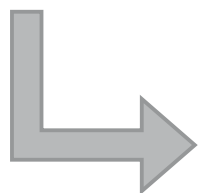
- ・ 大阪音大の方に来ていただき、演奏会を開催♪
- ・ 美味しいコーヒーと共に至福の時間を提供
- ・ 地域の方の憩いの場に☆





助成金の活用方法、目標

- ・ 11月4日に開催するお祭りの経費
- ・ 広報の際に必要なパンフレットの印刷代
- ・ 学生の交通費



黒川の魅力発信
より良いサービスの提供
のために必要不可欠な資金として活用



このイベント開催における成果

- ・ 学生やハイカー、地域住民との交流
- ・ 地域住民の方々の憩いの場、情報交換の場を提供



☆ コミュニティの活性を図る ☆

学生発表②

活動テーマ	玉造地区商店街活性化プロジェクト
活動場所	J R 玉造駅周辺
連携先	玉造日之出通り北商店街、玉造日之出通り商店街、玉造日之出通り商店街、 玉造商店会、幸村ロード、新日本カレンダー株式会社、廣川株式会社、 森下仁丹株式会社、株式会社 Dreams、 協力：大阪商工会議所 後援：天王寺区役所
活動主体	大阪女学院大学、大阪女学院短期大学

1. 活動概要

2012年10月から企画・立案し、本学と玉造地区の商店街4組合、新日本カレンダー株式会社が協力して産学連携事業を行い、今年度で6年目を迎える。

1、単発ではなく長期間の活性化

地元と商店街の活性化の為、学生と商店が協議し来訪を増やす「サービス」を考える。

2、サービス内容の充実

学生と商店が考案した「サービス」を365日分集め、新日本カレンダー株式会社が印刷原稿にし「日めくり」にする。(割引券、サービス券、ポイントアップ他、学生のアイデアを一日一枚365日のカレンダーにする)

3、商店街の各商店は、日めくりカレンダーの配布とリピーターを確保するために独自のアイデアを出し、カレンダーに反映して頂く。特に年末には学生とともに商店街大売出しイベント等でアピールする。

4、次年の来訪を促進する。

人を集めるのではなく、買い物をしていただける「お客様」の誘導こそが活性化であり、このプロジェクトの目的になる。

2. 年間計画

例年4月より参加学生を募り、5月から活動を開始。学生が玉造地区商店街の各店舗を訪問し、店舗ごとの割引券、サービス券、ポイントアップ他を聞き取り相談しながら、絵やレイアウトを企画し、365日の原稿を作成。出来たものを7月初旬に新日本カレンダー株式会社と打ち合わせを行い製造していただく。日めくりカレンダーの完成は9月末を目途とし、11月には大阪女学院の大学祭や地域に配布。12月には商店街の各商店の顧客にカレンダーを配布するため、学生が玉造地区商店街歳末大売出しイベントに参加しカレンダー配布作業を手伝う。今年度(2019年用カレンダー)は年号の関係で現在ストップしているが、新年号が決まった段階でスタートさせる方向。

3. 活動成果

大 学：①地域貢献、②地元商店街とのパイプの確立、③学生が実社会との接点を持ち、課題解決型プロジェクトへ参加することによるキャリアデザインの形成
商店街：①クーポンによる販促促進、②来店者の増加、③新規顧客開拓
新日本カレンダー：①地域貢献、②若者の感性を取り入れた商品開発
地域連携先：パブリシティ効果による知名度アップ

活動成果：

- ①メディア効果：2013年「日めくりカレンダー」が朝日新聞、読売新聞、MBSラジオ、MBSテレビ、読売テレビ、NHK（全国）、朝日（全国）、大阪商工会議所等のメディアで紹介された。
- ②商店街店舗・企業の新規参加：2016年から幸村ロードの各店舗、2017年玉造地区の企業（3社）
- ③カレンダー部門での表彰：〈全国カレンダー展〉
 - 2014年版：審査員特別賞 奥村賞
 - 2015年版：全国中小企業団体中央会会長賞 第2部門 銀賞
 - 2016年版：全国中小企業団体中央会会長賞 第2部門 銀賞〈国際カレンダー展〉ドイツ
2016年版：銅賞

4. 地域からの評価

- 毎年学生が中心となりプロジェクトメンバーを集めてもらい助かってます。
- 昨年からだただ引き継ぐだけではなく、新しい要素をプラスしてより良い日めくりカレンダーを主体的に考えて頂いています。
- 表紙、中身デザインを毎年大変だと思いますが、最後まで粘り強くやって頂いています。
- 毎年ポスターデザインは好評です。
- 特にリーダーの方は負担が大きいと思いますが、学生さんをまとめて頂いてフォローまでされていた事には感謝しています。
- 学生達とのコミュニケーションが取れるようになった。
- 学生が商店街の大売出しの日程に合わせ、商店街の2か所でカレンダーを配布することで、商店街の活性化に一躍を担っている。
- カレンダーが基で地域連携が進んだおかげで、毎年、本校のキャンドルライトサービスの日程に合わせ、玉造商店街の3か所でキャロリングを実施し、周辺の商店またお客様に喜んでいただいていることが地域貢献に繋がっている。

5. 参考 WEB サイト

<https://www.nkcalendar.co.jp/news/index.cgi?c=zoom&pk=93>
<http://www.543life.com/tss/>

6. 活動メンバー

2018年度大学国際・英語学部3年中西莉穂、福本真子、他21名
2017年度大学国際・英語学部3年半澤碧乃、國見 緑、他14名、短大英語科4名
2016年度大学国際・英語学部3年立花夏美、筒井陽香、他24名、短大英語科11名
2015年度大学国際・英語学部3年豊福良子、他24名
2014年度大学国際・英語学部4年橋内かな子、他14名

7. 担当教員

大阪女学院大学 教授 崔 大龍

8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	大阪女学院大学、大阪女学院短期大学	
所属先・職名	キャリアサポートセンター センター長	
氏 名	廣澤 幸男	
連絡先	電 話	06-6761-6093
	メー ル	hirosawa@wilmina.ac.jp

9. 活動の様子





産官学連携

玉造地区商店街 活性化プロジェクト

地元商店街クーポン付き日めくりカレンダーによる地域の活性化

玉造日之出通り北商店街 玉造日之出通り南商店街
玉造日之出通り中商店街 玉造商店会
大阪女学院大学・短大
後援 天王寺区 協力 大阪商工会議所
制作協力 新日本カレンダー株式会社

2014年5月1日
玉造地区商店街活性化プロジェクト

● 今回の産官学連携活性化事業のポイント

1. 単発ではなく長期間の活性化

これまで多くの商店街で実施されてきた一過性のイベントとは根本的に違う点です。今回の提案であるクーポン付き日めくりカレンダーの配布による効果は、爆発的な効果を期待するのではなく、年間通して『毎日がミニイベント』という認識を、お客様にさせていただき、日々来訪を促すことです。

2. サービス内容の充実を

クーポンは発行しさえすればどんなクーポンでもよいわけではなく、そのサービス内容にお客様の来店を促す魅力があるかどうか最も重要です。そこに、若い学生の発想を入れ『また来たい』と思わせるサービスを一緒に考え、実施することで他の商店街との差別化を段階的に図ります。

3. プロジェクトまかせではなく販促の一環として

今回のプロジェクトは単なるイベントとして捕らえるのではなく、『販促』だという気持ちで取り組んでいただくことが重要です。例えば、クーポン日には店舗独自に当日以降のクーポンを配布する、またPRチラシを配布するなどリピーター獲得するための独自のアイデアが必要です。ここにも学生のアイデアを活かしたいものです。

以上、これまでの商店街活性化事業では、たくさん人が集まるが商品は売れない、店にお客様が入ってこないという課題があったように聞いています。つまり、『人を集めるだけではモノは売れない』ということだと理解しています。人を集めるのではなく、買い物を
していただける『お客様』の誘導こそ活性化であり、このプロジェクトの目的としています。

●概要

- 1 地元と商店街の活性化のため、学生と商店が協議し来訪を増やす「サービス」を考える。



“本分・本業”を犠牲にすることなく、空いた時間を有効に活用し効率よく進めます。

- 2 学生と商店が考案した「サービス」を365日分集め、新日本カレンダーが協力し印刷原稿にし「日めくり」にする。



割引券、サービス券、ポイントアップ他、学生だから考えつくアイデアを一日一枚365日のカレンダーにする。

- 3 各商店は、順次配布する。特に年末には学生とともに大売り出しイベント等でアピールする。



見本

- 4 次年の来訪を促進する。



商店ごとのクーポンも入れ

●期待できる効果

商店街

- ・クーポンによる販売促進。
- ・来店者の増加。
- ・パブリシティ効果による知名度アップ。
- ・カレンダー販売による収益。
- ・新規顧客開拓。
- ・若者感覚を導入した店舗展開。

大学

- ・地域社会に貢献。
- ・地元商店街とのパイプの確立。
- ・学生が実社会との接点を持ち、課題解決型プロジェクトへ参加することによるキャリアデザインの形成。
- ・パブリシティ効果による大学の知名度アップ。

話題性のある取り組みを
三者が協力して行い、

地域の活性化
商店街活性化
知名度の向上

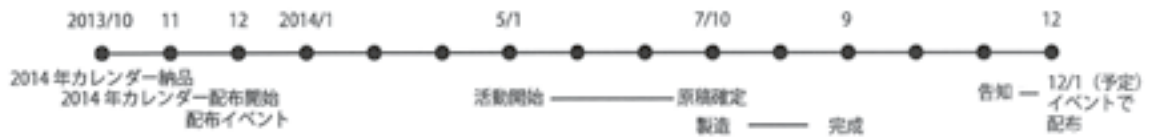
を図る。

新日本カレンダー

- ・地域社会への貢献。
- ・パブリシティ効果による知名度アップ。
- ・若者の感性を取り入れた商品開発。

●日程

2015年版の日めくりカレンダーにて実施。(2014年9月末までに完成)



●収支計画

●配布方法 (2014年版)

- 11/16.17大阪女学院大学・短期大学学園祭で配布 ●12/1北商店街抽選場で配布イベント
- 各商店による顧客へ配布 ●真田山幼稚園保護者に配布

●製造数量

3,000冊

●プロジェクト編成

商店街：玉造日之出通り北商店街

：玉造日之出通り中商店街

：玉造日之出通り南商店街

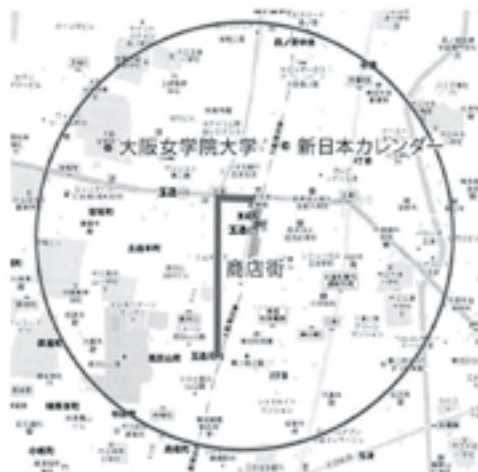
：玉造商店会

大 学：大阪女学院大学・短期大学

後 援：天王寺区

協 力：大阪商工会議所

制作協力：新日本カレンダー株式会社



●パブリシティ効果（報道機関が主体的に発信する情報）

今回提案させていただいている商店ごとのクーポン付き日めくりカレンダーの発行は、活性化プロジェクトの一手段であり、継続、または並行して新たに第二、第三の戦略・戦術を検討し、継続することが何よりも重要だと考えます。

例えば、空き店舗を利用した学生によるアンテナショップの経営等…当社の扱い商品を活かせる企画が検討可能です。(カレンダー、DECO(販促品)、ベビー商品(ペット用品)など)

また、このプロジェクトの目的を達成するためには、商店街出店の商店や地元の一部の学校・企業だけが尽力するだけでは力不足であり、地元住民やJRおよび地下鉄玉造駅、JR、近鉄鶴橋駅等を利用する人たちを巻き込むこと、また政治力およびマスメディアによる広報等の協力が欠かせないと考えます。そのための情報発信方法の検討も重要な要素となります。

マスコミ発表のタイミング（案）



制作開始

(三人齊れば文書の加蓋！
大版・玉造で面白い取り組みが
はじまっています！)



完成

(商店街と大学と企業の
コラボレーションカレンダー！
店頭で配布されるそうです。)



年末

(玉造でクーポン付き
日めくりカレンダーが
流行っています！)

DIE FACHJURY DES GRAPHISCHEN KLUBS STUTTGART E. V.
HAT DEN NACHFOLGEND BESCHRIEBENEN KALENDER MIT
DEM PRÄDIKAT BRONZE AUSGEZEICHNET!

Coupons Daily Calendar

Customer:
Tanatokuul area Shopping Street Activation Project,
Osaka, Japan

Illustrator:
Osaka Jogakuin University

Designer/Art Director/Printing:
Shinnypon Calendar Co., Ltd.

Stuttgart, im Januar 2016

A. Müller

Heinrich Müller
Geschäftsführer/Vorsitz
Graphischer Klub Stuttgart e. V.

Dr. Niko Scheid

Dr. Niko Scheid M.B.
Mitglied 40. Ehrenamt und
Wirtschaft Baden-Württemberg

Reguliert durch den Graphischen Klub Stuttgart e. V., das Ministerium für Finanzen und Wirtschaft
Baden-Württemberg und den Verband Druck und Medien Baden-Württemberg





「秘密保護法」の成立は、日本の民主主義を脅かす。政府は、この法律を撤回するべきだ。市民は、この法律に反対する。秘密保護法は、日本の民主主義を脅かす。政府は、この法律を撤回するべきだ。市民は、この法律に反対する。

100円
新鮮野菜
新鮮野菜 100円
新鮮野菜 100円
新鮮野菜 100円

秘密保護法案 「反対」表明 23弁護士会

秘密保護法案の成立は、日本の民主主義を脅かす。政府は、この法律を撤回するべきだ。市民は、この法律に反対する。秘密保護法は、日本の民主主義を脅かす。政府は、この法律を撤回するべきだ。市民は、この法律に反対する。

米の情報公開縛る恐れ

米の情報公開縛る恐れ。秘密保護法案の成立は、日本の民主主義を脅かす。政府は、この法律を撤回するべきだ。市民は、この法律に反対する。秘密保護法は、日本の民主主義を脅かす。政府は、この法律を撤回するべきだ。市民は、この法律に反対する。

論人公婦 日本に希望を 女性の力を 信じて！

見村 櫻子、村松 和子、安藤 裕子、クリスチナ、ボリス、公原 隆、前田 敦子、嵐

365日お得!

結ばる 追う

交流ピクニック

学生発表③

活動テーマ	伝えよう、星の神秘と科学「星の町☆かたの」プラネタリウム復活を目指して
活動場所	星の里いわふね 交野市立いわふね自然の森スポーツ・文化センター
連携先	交野市教育委員会、毎日美装株式会社
活動主体	摂南大学PBLプロジェクト

1. 活動概要

「星」にまつわる科学をテーマとして、稼働していなかった交野市のプラネタリウムを、2年間を通じて学生自らが操作し、星の動きや星座、神話、クイズなどを交えて、交野市の児童・生徒に向けた自然科学の楽しさを伝える参加型のプログラムをつくるプロジェクトです。

去年は、限定的に稼働できるプラネタリウムの操作法を習得し、4つのグループに分かれて四季のシナリオを1つずつ作成し、小学生や中学生対象に投影会を3回行いました。

今年は、去年から参加している学生が中心となって、新加入の学生たちを指導しつつ、去年作成したシナリオのブラッシュアップを行うことで、子どもたちに分かりやすい内容を目指しています。さらに、5回の投影会を通じて、交野市でプラネタリウムを理科教育に利用するためのプラネタリウム簡易操作マニュアルを完成させ、交野市教育委員会に残すことを目標としています。

2. 年間計画

5月：新加入者を含めた顔合わせ
6月：7月14日の投影会に向けて夏のシナリオを作成
新加入者たちは交野市のプラネタリウム操作を初体験
7月14日の投影会に向けて練習・シナリオのすり合わせ（現地にて）
7月：交野市の学童の小学生を対象に投影会
8月：プラネタリウム操作の習得（新加入者対象）
投影会に向けて、新たに夏のシナリオを作成、練習
新加入学生たちによる投影会
10月：西はりま天文台（兵庫県）に見学
小学生を対象に投影会
11月：小学生を対象に投影会
12月：中学生を対象に投影会

3. 活動成果

当初は、プラネタリウムが稼働するかどうか課題でしたが、企業の協力でオーバーオールができ、プロジェクトが無事進行することができました。現地（星の里いわふね）に行かないと本体を操作できないことや他学科同士の日程調整が難しいことなどが課題でした。私たちは、現地での練習回数が少ない状況で最大限の成果を出すために、大学内の時間や休日を活用して、キャンパス内で頻繁に集まることで、この問題を克服し、シナリオを作成して無事に投影会を行うことができました。また、投影会后、参加してくれた小・中学生にアンケートを実施し、内容が楽しかったかどうか、次のシナリオなど、子どもたちの反応や要望を知ることができました。現在、これらのアンケート結果を全員にフィードバックし、四季のシナリオのブラッシュアップ、さらには太陽や惑星の動きを加えることで理科教育に生かせるプログラムの作成など、これからの活動の成果を期待しています。

4. 地域からの評価

交野市教育委員会の教育長から2018年3月に感謝状を頂きました。

5. 参考 WEB サイト

<http://www.setsunan.ac.jp/news/detail.html?id=3471>

<http://www.setsunan.ac.jp/pbl/project2018/project16>

6. 活動メンバー

理工学部3年 鍋島優夏、泉智仁、澄田航、佐伯鮎美、山口彪我、岩橋暁成、上村朋華

理工学部2年 植松大輝、楠本真子、高良美生、小林祐香、奈良好太、三上唯衣

法学部3年 松岡明穂

外国語学部3年 瀬尾佳奈子

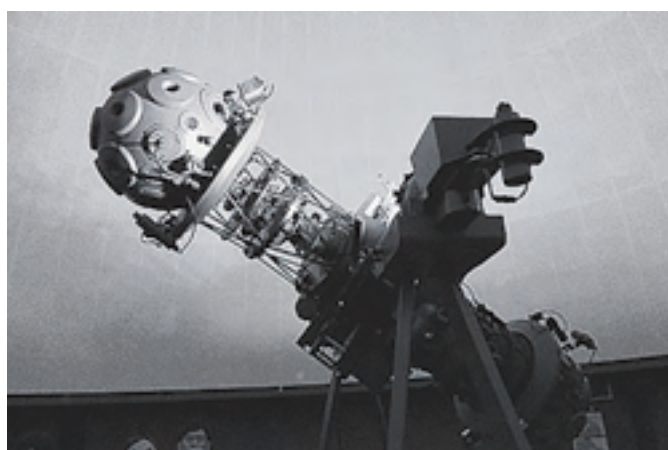
7. 担当教員

理工学部生命科学科教授 尾山廣、松尾康光 同学部住環境デザイン学科教授 川上比奈子

8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	摂南大学	
所属先・職名	理工学部 生命科学科 3回生	
氏 名	鍋島優夏	
連絡先	電 話	
	メー ル	

9. 活動の様子





伝えよう、星の神秘と科学

- 星のまち交野のプラネタリウム再生を目指して -



【摂南大学PBLプロジェクト】

鍋島優夏、泉智仁、澄田航、佐伯鮎美、松岡明穂、
山口彪我、岩橋暁成、上村朋華、植松大輝、
楠本真子、高良美生、小林祐香、忝本好太、
三上唯衣、瀬尾佳奈子

教員：尾山廣(V科)、松尾康光(V科)、川上比奈子(R科)
連携：交野市教育委員会、毎日美装(株)
協力：コニカミノルタ(株)、羽石寛寿(摂南大学名誉教授)
向井弘(向井電気商会・星のソムリエ)

PBLとは？

「PBL」とは、「Project Based Learning」の頭文字を取った言葉で、「プロジェクト体験型学習」といいます。

摂南大学PBLプロジェクトは、本学の教育理念である「自ら課題を発見し、そして解決することができる知的専門職業人の育成」を实践するためのプログラムであり、このプログラムの特徴は、学生が自ら課題を発見し、プロジェクトのメンバーと協働して、課題の解決に取り組む創造的・社会的な学びであることです。

教育効果としては、企業・団体・地域とのタイアップを通じ、社会人として必要な「前に踏み出す力(アクション)、考え抜く力(シンキング)、チームで働く力(チームワーク)」などの社会人基礎力を身に付けることを目指しています。

プロジェクトの概要

10年間稼働していなかった交野市のプラネタリウムが、限定的に使えることがわかったことから、2年間を通じて学生自らが操作し、星の動きや星座、神話、クイズなどを交えて、交野市の児童・生徒に向けた自然科学の楽しさを伝える参加型のプログラムをつくるプロジェクトです。

いわふね自然の森スポーツ・文化センター



活動拠点



PBL活動の軌跡(2017年)

1年目

全体ミーティング (5月2日・6日、9月7日)
グループ分け会議 (6月20日)
プラネタリウムのメンテナンス (5月25日)
初めてのプラネタリウム見学 (5月27日)
プラネタリウム操作法の習得と投影シナリオの作成
(6月24日、29日、7月8日、9月6日、
10月14日、10月28日、11月11日、11月25日)
交野市在住の小学生・中学生への投映会
(12月16日、2018年1月13日)

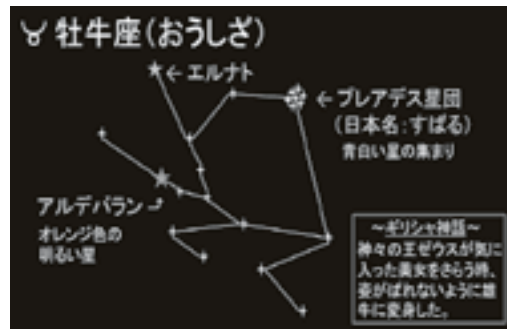
昨年(2017年)の活動内容

プラネタリウムの操作法を習得し、四季のシナリオを1つずつ作成し、交野市の小学生や中学生対象に投影会を3回行いました。



冬のシナリオ

オリオン座をはじめとする冬の大きな三角形や、冬のダイヤモンドに加え、最後に星と交野市にまつわる歴史についての紹介をしました。適宜スライドを作成し、よりわかりやすいように工夫しました。



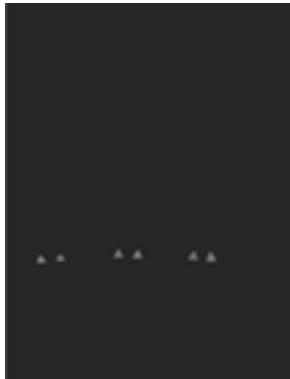
秋のシナリオ

星の町・交野市にまつわるクイズを行い、ペルセウスとアンドロメダで構成される「秋の四辺形」についての話をしました。わかりやすく子どもたちに伝えるために、ペルセウスとアンドロメダ、ペガサスの神話を紙芝居で行いました。



クイズの方法

クリッカーというツールとリモコンを使って解答の集計を行い、子どもたちが参加しやすいように工夫をしました。



蛍光シールを用いて、暗い中でも使えるようにしました。

PBL活動の軌跡(2018年)

2年目

5月:新加入者を含めた顔合わせ

6月:7月14日の投影会に向けて夏のシナリオを作成し、
投影会に向けて練習・シナリオのすり合わせ

7月:交野市の学童の小学生を対象に投影会

8月:投影会に向けて、新たに夏のシナリオを作成, 練習
新加入学生たちによる投影会

10月:西はりま天文台で実際に星を観察し, 知識向上を目指す

今年(2018年)の活動内容

- ・去年作成したシナリオのブラッシュアップを行うことで、子どもたちに分かりやすい内容を目指します。
- ・交野市でプラネタリウムを理科教育に利用するためのプラネタリウム簡易操作マニュアルを完成させ、交野市教育委員会に残すことが目標です。

第1回投影会【七夕・夏の星座】 (7月14日)

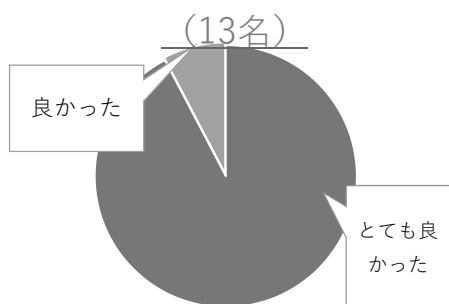
交野市の小学校低学年(1～3年生)を対象に、七夕や夏の星座の投影会を行いました。

有名な織姫、彦星のお話や、交野市にある七夕に関する場所を紹介し、夏の大三角や黄道12星座(いて座、てんびん座)を交えました。



参加者の感想

投映プログラムの感想



今日のプラネタリウムの投映は、如何でしたか？
①とてもよかった ②よかった ③まあまあ（ふつう）
④あまりよくなかった ⑤よくなかった

それぞれの感想（抜粋）

- クイズがとても楽しかった
- 面白かった，迫力があつた
- また来たい
- みずがめ座やうお座など，他の星座を取り上げてほしい

小学3年：4人 小学2年：3人
小学1年：6人

第2回投影会【夏の大三角・火星】 (8月21日)

小学生(低学年・高学年)を対象に投影会を行いました。
7月に行った夏の大三角に加え、火星についてもお話ししました。
今回の投影会で初めて惑星の内容にチャレンジしました。



実施上の課題と取り組み

- ・プラネタリウムの操作は現地でしか行えないこと
 - 少人数グループに分かれて、軸となるメンバー中心に連絡を取り合い、全員が日程を調整し活動に参加する。
 - 操作する星座を季節ごとに限定することで、操作をできるだけ簡略化する。
- ・小学生が理解できるような投映シナリオ作りが難しいこと
 - 対象学年の教科書を参考にし、クイズや紙芝居をパワーポイントで作成するなどの工夫をする。
 - 投影会ごとにアンケートをとり、次回のシナリオ作成に反映させる。

今後の活動

- ・10月、11月、12月に小・中学生を対象とした投影会を行う。
- ・プラネタリウムの操作方法(本体の起動法, ランプの交換法, 制御盤の操作法, 星座絵投影用ランプの調整法など)のマニュアルを作成する。
- ・小学生・中学生対応の理科教材(恒星、惑星の動き, 年周運動、日周運動など)を作成する。

学生発表④

活動テーマ	教育インターンシップ：小学校と中学校
活動場所	① 大阪市中央区東心斎橋 1-14-29 ② 大阪市中央区島之内 1-10-23
連携先	① 大阪市立南小学校 ② 大阪市立南中学校
活動主体	大阪女学院大学

1. 活動概要

小学校でのインターンシップでは週に一回二時間ほど、担当になった各クラスで生徒達と一緒に授業に参加し、また特に外国にルーツを持つ生徒をサポートした。中学校でのインターンシップでは週に二回程放課後の学習支援を中心に参加した。そこでは外国から来たばかりで日本語が話せない生徒たちのサポートを行った。

大学での授業は二週間に一回、どのように生徒をサポートしたらいいのかを学び、また、インターンシップ生同士で話し合った。この春学期は、インターンシップ先の教員がご自身の研究の為にこの授業に参加されたが、インターンシップ生は彼女から生徒たちが直面している学習や教室でのトラブルなどについて話を直接聞き、学ぶことができた。

2. 年間計画

大阪女学院の教育インターンシップは、小学校と中学校がある。インターンシップは春学期と秋学期どちらもあり、春学期は四月から七月まで秋学期は十月から十二月、合計で十週間学校に行きインターンシップを行う。また、二週間に一度大学で授業を行い、最終授業では各インターンシップ生がそれぞれ学んだことについてプレゼンテーションをおこなう。またその場にはインターンシップ先の校長先生をはじめ教員の方にもお越しいただき、プレゼンテーションについてや、インターンシップを通して、どのようにインターンシップ生がそれぞれの学校又生徒達を支援できたかのご意見・ご感想をいただく。それぞれの学期の間の休暇中には、大学からの教員と職員が小学校並びに中学校を訪問し、次回のインターンシップについて改善点等を校長先生たちと話し合う。

3. 活動成果

インターンシップの回数を重ねるたびに、授業において例えば生徒たちが質問をしてこなくても助けが必要だと思ったら自らサポートすることができた。また、生徒たちと会話をする際には普段自分たちがコミュニケーションをとるときに使う日本語ではなく、より理解しやすいような言葉を選び会話を行うように努めた。

また、大阪女学院で学ぶ留学生2名が参加した中学校のインターンシップでは、その時丁度日本に来たばかりの生徒が中学校にいたが、偶然彼女たちが自分たちが日本語を勉強する際に使用していた教材をその生徒も使用することに気づき、彼女達自身の日本語学習の経験を有効に活かしてその生徒の日本語の学びをサポートすることができた。

4. 地域からの評価

インターンシップ先の小学校では、授業中のサポートを中心に行っており、特に英語の授業では大阪女学院からのインターンシップ生の英語の発音が良いので、生徒達の英語の学びに良い影響を与えることができた。また、英語の絵本の読み聞かせを行うなど、生徒達と有効的に英語に興味を持たせる機会を設けることができた等の評価をいただいている。中学校では放課後の学習支援を中心に行っているが、外国にルーツを持つ生徒のサポートを日本語の難しさを理解している大阪女学院の留学生等が行うことにより、より近い立場で指導ができ、生徒の学びの意欲促進につながったのではと評価をいただいている。

5. 参考WEBサイト

--

6. 活動メンバー

WGL 専攻 2年 久野 那菜
WGL 専攻 2年 遠藤 麻衣
WGL 専攻 2年 Disala Fernando
WGL 専攻 2年 Sanadali Dilshanie

7. 担当教員

国際英語学部：WGL coordinator 教授 Scott Johnston

8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	大阪女学院大学	
所属先・職名	国際交流センター	
氏 名	武鹿 聡子	
連絡先	電 話	06-6761-9382
	メー ル	Takeshika@wilmina.ac.jp

教育インターンシップ 南小・中学校

717010 遠藤麻衣
717011 Disala
717027 久野那菜
717114 p.v.Sandali

南小学校での インターンシップ

大阪市立南小学校

大阪女学院大学



画像 南小学校HPより<http://swa.city-osaka.ed.jp/swas/index.php?id=e551131>



本日の話しの流れ

- インターンシップに参加した理由
- 目標
- 学びと気づき
- まとめ

インターンシップに参加した理由

- 経験を得たかった
- 教育の場に携わりたかった
- 指導方法の違いを知る



インターンシップの目標

- 生徒に平等に接する
- できるだけ多くの生徒の名前を覚える
- 授業の理解不足の生徒に気づく



気づきと学び

- 指導方法、接し方の違いで生徒の注意が変わる
- 子ども一人ひとり、考え方が違って、意見も違う
- 自分が発する言葉に責任を持つ



南中学校での インターンシップ

大阪市立南中学校

大阪女学院大学



インターンシップに参加した理由

- 日本の教育システムを学びたい
- 留学経験を生かして教えたい

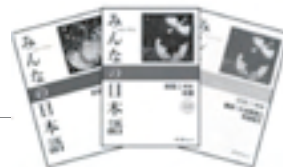
インターンシップの目標

- 生徒から学ぶ
- 新しいことにチャレンジする



気づきと学び

- 日本語教室
- いろいろな国の生徒たち
- 日本語、理科、数学、英語



気づきと学び



○それぞれの個性 → それぞれの教え方

○知らないこともたくさん → みんなで先生に聞こう!

まとめ

○学校に行きたくない生徒を0にするためには?

○想像力豊かなので子どもたちのプラス部分を大事にし、より向上させるためには?

○考え方を押し付けすぎず、常識をつけさせるためには?



○自分自身の学びと気づき

○サポートは一方通行ではないこと



まとめ

- 沢山の子供たちとの関わり
- 指導する側に立つことでの気づき
- 教育の大切さ



ありがとうございました



学生発表⑤

活動テーマ	学生による親子を対象にした食育
活動場所	大阪府北摂地区を主とした大阪府一円
連携先	大阪府中央卸売市場
活動主体	追手門学院大学 経営学部 村上喜郁ゼミ生

1. 活動概要

大阪府中央卸売市場と提携し、当ゼミで考案した「模擬セリ」や「食育わなげ」等を通して、子供たちに自分達の食べている食材がどのように食卓に届いているか、食事をバランスよく摂取することの重要性を説明する活動をおこなっている。主に地域のお祭りや食育イベント等において実施している。

具体的に「模擬セリ」は、市場流通のあらましを説明し、「セリ」をクイズ形式で模擬的に体験してもらうイベントである。クイズ形式にすることで、子供たちの興味を引き、野菜や果物の値段や性質など楽しく知ってもらうよう工夫している。

一方の「食育わなげ」は、子供たちに1日に必要な野菜摂取量を学んでもらうゲームである。輪を棒に入れることで食べ物を摂取したことに見立て、魚、野菜、果物を1種類ずつバランスよく摂取する事を目指してもらう。ゲーム仕立てにすることで、子供たちには難しい栄養バランスのことも分かりやすく学ぶことが出来る。

2. 年間計画

年間、数回のイベントの企画と運営をおこなっている。

(以下、実施済みのもの。)

2018年5月12日(土)「松坂屋高槻店にて食育イベント」

場所：松坂屋高槻店前

内容：大阪府中央卸売市場開場40周年記念企画として、「模擬セリ」を松坂屋高槻店「長崎・熊本フェア」と連携して実施。

2018年5月27日(日)「KEIHAN 食育フェスタ」

場所：京阪デパート守口店前カナディアンスクエア

内容：「模擬セリ」と「食育わなげ」のブースを出展し、魚と野菜の市場流通の仕組みを説明、野菜食の啓蒙活動を実施。

(以下、計画中のもの)

2018年秋「(仮)天王寺動物園と連携した食育イベントとの実施」

場所：天王寺動物園内を予定

内容：企画・交渉中

2018年11月11日(日)「大阪府中央卸売市場 市場開放デー」

場所：大阪府中央卸売市場

内容：「模擬セリ」や「食育わなげ」等を実施予定。

以上

3. 活動成果

2012年に追手門学院と大阪府中央卸売市場が、事業連携に関する覚え書きを締結以降、当該の地域における食育活動を実施している。2018年の活動としては、8月現在2つの食育イベントを行った。

2018年5月19日（土）に松坂屋高槻店で実施した「模擬セリ」には、30名の子供が参加した。また、2018年5月27日（日）におこなわれた「KEIHAN 食育フェスタ」には、「模擬セリ」には57名、「食育わなげ」では173名の子供たちが参加した。

また、今後の活動として2つを予定している。まず、2018年秋には「(仮) 天王寺動物園と連携した食育イベントとの実施」を計画している。また、2018年11月11日（日）には「大阪府中央卸売市場 市場開放デー」への「模擬セリ」と「食育わなげ」を出展する。

4. 地域からの評価

2012年の大阪府中央卸売市場との事業連携に関する覚書の締結以降、村上喜郁ゼミの先輩たちが、地域の市場である大阪府中央卸売市場との連携活動を継続的にこなっている。このような成果により、大阪府中央卸売市場以外の他団体からも複数のオファーがあり、2013年度以降では、茨木商工会議所の「冬のガンバル市」、阪神百貨店で行われた「ちびっこ模擬セリ」、茨木市主催の「まちづくり塾」、大阪新阪急ホテルの「ホテル de マルシェ」他多数のイベントに企画・運営で参加している。

5. 参考 WEB サイト

Facebook 追手門学院大学 村上喜郁ゼミ <https://www.facebook.com/467437760003413/>
大阪府 HP 大阪府中央卸売市場 <http://www.pref.osaka.lg.jp/fuichiba/>
大阪府中央卸売市場管理センター「市場だより」 <http://osakafu-ichiba.jp/letter>

6. 活動メンバー

追手門学院大学 経営学部 村上喜郁ゼミ
3 回生：島田直美（リーダー）、山田大貴（サブリーダー）、藤井優樹、木村駿、樋口貴也、山下大輝、近澤憲人、西本翔太、濱口侑也、山本雅刀
2 回生：仮谷優花、兵庫沙耶花、上田弥祐、矢川実咲

7. 担当教員

経営学部 准教授 村上喜郁

8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	追手門学院大学
所属先・職名	経営学部 准教授
氏 名	村上 喜郁
連絡先	電 話 072-641-7842（研究室）
	メー ル ymura@otemon.ac.jp（※連絡はメール優先でお願いします。）

9. 活動の様子



追手門学院大学
×
大阪府中央卸売市場

連携活動

追手門学院大学 経営学部 村上喜郁ゼミ

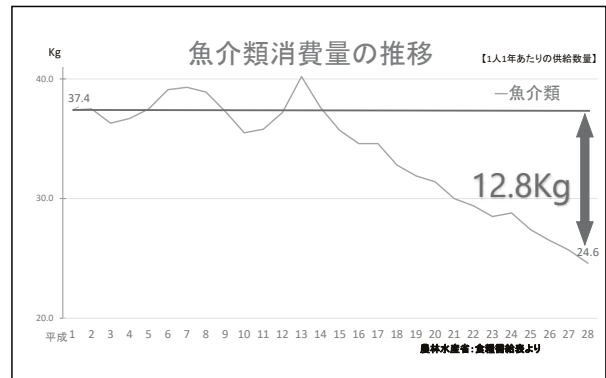
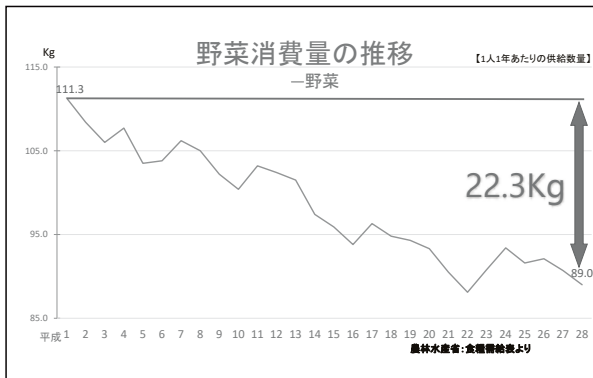


1

活動概要

「魚食離れ・野菜摂取不足の解消」をテーマに、大阪府中央卸売市場と連携し、茨木市を中心とした北摂地域で食育活動を行う。参加学生がPBL(課題解決型学習)を通して、実践的に経営学を学ぶ。

2

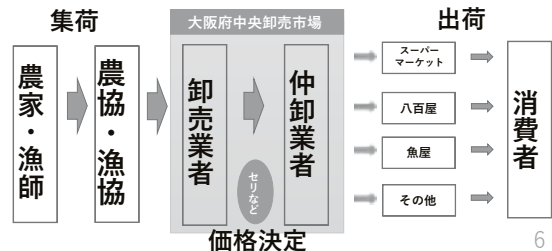


大阪府中央卸売市場の課題

卸売市場は、流通の中間に位置する為、消費者との直接的つながりが薄い。そこで、消費者への情報発信が困難である。

5

大阪府中央卸売市場の役割



6

本活動の学生の役割

市場と消費者の橋渡しに学生が入り、北摂地域を中心に食の安全・安心、食育、市場の情報発信をおこなう。

7

村上ゼミ 3つのプロジェクト

- ① 食育イベントプロジェクト
- ② 追手井おうてどんプロジェクト
- ③ 学園祭出店プロジェクト

8

①食育イベントプロジェクト

市場に代わり学生が北摂地域の子どもたちを対象に、「模擬セリ」や「食育わなげ」を通して市場の仕組みや食育について学んでもらう。



9

模擬セリと食育わなげ

- ・模擬セリ
子どもたちに、卸売市場での価格決定について、クイズ形式で学んでもらう。
- ・食育わなげ
バランスよく食事する重要性を説明するゲーム。

10

学生企画の食育グッズ

- ・まな板シート
調理する際、食材によって使う面を変えて、衛生に配慮してもらおう。
 - ・ハンドタオル
食事の前の手洗いは清潔なタオルを使おうという食育グッズ。
- これらを食育イベントのお土産として配布。



11

2018年度の食育イベント活動

- 5月19日（土）「大阪府中央卸売市場開場40周年記念企画」
場所：松坂屋高槻店前
参加者数：模擬セリ 30名
- 5月27日（日）「KEIHAN食育フェスタ」
場所：京阪デパート守口店前カナディアンスクエア
参加者数：模擬セリ 57名
輪投げ 173名
- 合計 260名**

12

大阪府中央卸売市場 市場まつり

2018年11月11日（日）

446名



13

②追手井（おうてどん）プロジェクト

毎年、テーマを変え、B級グルメ※開発を通して、地方一次産業の活性化や大学の地域貢献、若者の魚・野菜離れについて考えるプロジェクト。

※ここでいう「B級グルメ」とは「2番目のレベルの食」ではなく、「大衆的な食」という意味。

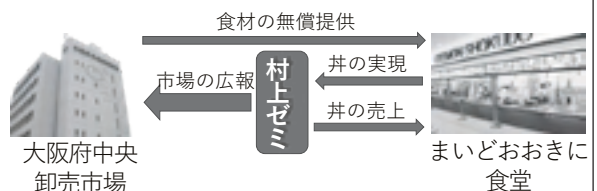
14

追手井プロジェクトの仕組み（1）

大阪府中央卸売市場から、新鮮な魚と野菜の材料提供を受け、まいどおおきに食堂追手門食堂とメニューを共同開発する。

15

追手井プロジェクトの仕組み（2）



16

2018年度の追手井のコンセプト

人が食事をするのは、「胃袋を満たすため」や「栄養を取るため」である。しかし、近年、自分の食事をSNSにアップする等、「自己表現のための食」が出現している。

17

2018年度の追手井

科学的に健康に良いと証明されている「地中海食」と日本人の食べ慣れた「和食」を融合し、SNS映えを意識して開発した。



彩リエスカベッシュ丼

18

2018年度の追手井の提供数

オープンキャンパス提供
7月22日(日) 56杯
8月3日(金) 104杯
8月4日(土) 106杯
一般販売
10月10日(水)
10月11日(木) 215杯



合計481杯

19

③学園祭出店プロジェクト

毎年、秋に開催される追手門学院大学の学園祭「将軍山祭」に出店し、野菜摂取啓蒙食を企画・開発・販売するプロジェクト。

20

2018年度の学園祭出店PJの概要

大阪府中央卸売市場より食材提供を受け、ターゲットとなる若者に人気の「韓国」をテーマに、1日の目標となる緑黄色野菜量の1/3が摂取出来る食べ歩き可能な「野菜チヂミ」を企画・開発・販売する。

21

将軍山祭BHPへの参加

BHP (Beautiful Holiday Plan) とは、地域の恵まれない子供たちを学園祭に招待し、大学生との交流を深めてもらうことを目的とした事業で、本活動もBHP金券を取り扱うことにより参加している。

22

野菜たっぷりチヂミの販売数



将軍山祭2日間
10月27日(土)
28日(日)

合計439杯

23

まとめ

- ・参加学生が、卸売市場と消費者の橋渡しを担う。
- ・村上ゼミ3つのプロジェクトでは、参加学生は現場で経営学を学び、課題解決を目指し、地域の人達の健康づくりを推進している。

24

学生発表⑥

活動テーマ	美術を介した活動によって地域のボーダレスな関係を築く
活動場所	大阪市東淀川区
連携先	ノーマライゼーション協会、西淡路希望の家
活動主体	大阪成蹊大学 芸術学部 造形芸術学科 表現教育コース

1. 活動概要

地域をリサーチし、その特徴や住民の皆さんの地域への思いや課題などを見つけ、そこに芸術を学ぶ学生としてアートの中でアプローチを試みる。

- 大学と同じ地域に立地する障がい者福祉施設の「西淡路希望の家」（社会福祉法人ノーマライゼーション協会）と連携し、利用者さんと学生がアート表現活動を共にし、その成果を作品展示やコラボレーションや制作作品展示等の形で発信する。
- 同じく社会福祉法人ノーマライゼーション協会の施設「淡路つどいホール」において、参加型演劇（大人、子供、障がいの有る方等多様な観客を対象として）を、企画、創作、上演し、地域の人びとのアーティストックでアクティブなコミュニケーションの場作りを試みた。
- 世代の違いや障がいの有無に関わらないアートを通したボーダレスなコミュニケーションを創出することがねらいである。

2. 年間計画

- 2017年9月 地域の子供たち、大人、障がいある方などをボーダレスに巻き込む「参加型演劇」の構想を開始。
- 2017年10月～12月 劇の内容、脚本、イベント全体の企画等を進め、衣装、道具等の制作およびキャストの練習、広報、会場選定と使用の交渉等も並行して行う。
- 2018年1月 東淀川区のこみち幼稚園において、プレイベントとして、劇関連のワークショップ実施と劇上演。
- 2018年2月 淡路つどいホールにて、ワークショップおよび参加型劇の上演。
- 2018年4月～ 西淡路希望の家の8名の利用者と協働による表現活動開始。
- 2018年4月～7月 施設利用者と学生の混成チームによる表現活動の継続。
- 2018年9月 展覧会「UNKOWN ASIA」に希望の家のアーティスト西原さんの作品を展示（予定）
- 2018年12月 展覧会を開催し、協働によるアート活動の成果を発表する（予定）
- 2019年1月 大阪府立江之子島文化芸術創造センター 展示室において、希望の家メンバーの選抜作品展を学生企画により開催（予定）

3. 活動成果

- 参加型演劇の企画、上演は、地域に暮らす多様な人々をアートの場において繋ぎ、共生することの楽しさを形にすることが目的であったが、最終的に実施までを終えて、その場においての一定の成果を得ることができた。
- 西淡路希望の家の利用者の皆さんの表現活動と関わり、協働することにより作品等について何らかの展開を目指す活動においては、8つのグループがそれぞれ独自の進め方により現在成果をまとめている。中間報告として7月14日に施設におけるイベント会場内で、ワークショップとパネルによる中間成果報告を行った。今後予定している展覧会における展示において最終の成果を報告する予定。

4. 地域からの評価

- 開催をお願いしたノーマライゼーション協会の、入所施設からも利用者さんの参加が多数あり、身体的な表現を取り入れた活動に皆さんが積極的に楽しく参加いただけたとの感想を頂いた。また、このイベントの最大の狙いであるボーダレスなコミュニケーションの場作りがなされたことが評価され、再演のオファーも頂くことができた。
- 4月～7月の協働活動や、イベントでのワークショップ実施については、施設側の担当者等からも、学生の対応について、高評価を頂いた。これからそれぞれの成果物について、展示等を通して評価を確認していく。直接関わる事ができた利用者の方などにもどのような変化があったかなども追ってリサーチする予定。

5. 参考WEBサイト

無し

6. 活動メンバー

沖 南菜子、澤井 範彦、佐々木 もも、チェ ユリム、中嶋 瑞穂、水上 しほ、尾崎 友梨、小西 拓海、坪田 晶、上田 勇生、河内山 さとか、西浦 亜美、和田 美咲、新見 百香、吉村 明納、上田 朋聖、河本 杏海、榎原 恋人、村岡 里菜、元山 稚菜

7. 担当教員

芸術学部 大手裕子

8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	大阪成蹊大学	
所属先・職名	芸術学部 造形芸術学科 教授	
氏 名	大手裕子	
連絡先	電 話	06-6195-2831
	メー ル	ote@osaka-seikei.ac.jp

9. 活動の様子



〈たま GO〉



始まる前のワークショップで、ダンスのためのマラカス作り



観客の座席は目玉焼き型



小さい人からお年寄りまで、車いすの方もみんな一緒にフロアで待っています



キャストとスタッフ一同で円陣を組みます。



前座は1年生によるミニ演劇（ニワトリがロックでダンス！？）



いよいよ「たまGO」上演開始



野菜のキャスト登場！



悪役も良い役もみんな一緒にダンス！



観客は真剣な表情で見守ります。



劇が終わってみんなでダンス！



子どもたちは舞台上がります



キャストとの握手会。



主役のたまご達



全員集合！！

〈プロジェクト演習—障害のある方と、表現活動〉



地面に落書き



教室でのワークショップ、何が始まるか??



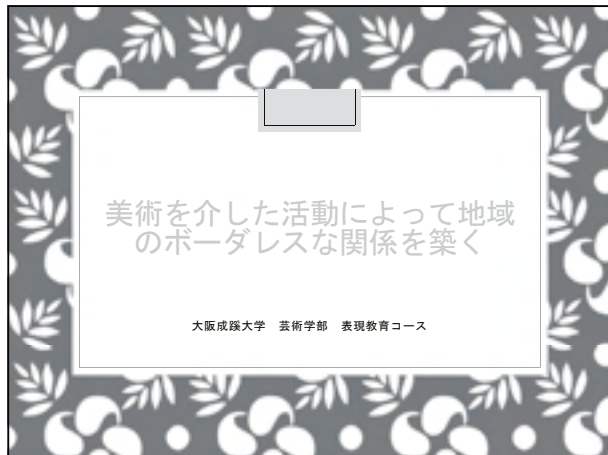
相手を良く見て似顔絵を描く。



完成した似顔絵の発表会



大きな紙に海の中をみんなで描く。



表現教育コースとは

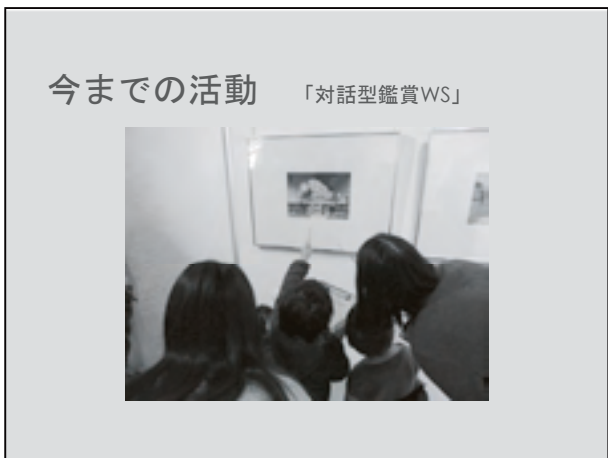




今までの活動 「もう一つの昆虫館」



今までの活動 「もう一つの昆虫館」



今までの活動 「たまGO!!」



今までの活動 「プロジェクト演習」





今までの活動 「たまGO!!」



今までの活動 「たまGO!!」



成長したこと

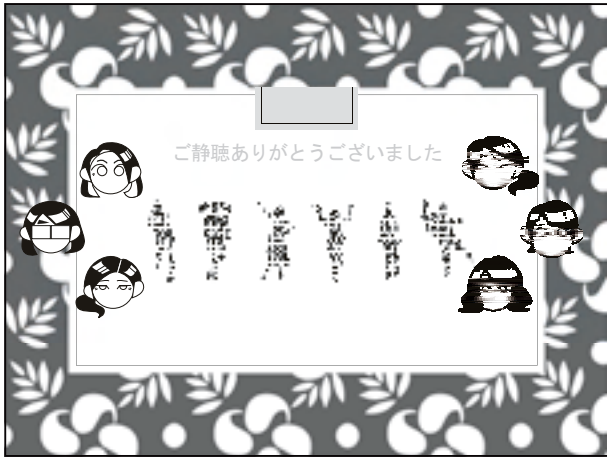
- 知識が増え、表現の幅が広がった。
- 伝え方の工夫ができるようになった。
- 作品を人と協力し、完成させることで自信につなげることができた。
- グループ活動を行うことにより、一人一人の個性が表れ、発展した作品を作り上げることができた。

地域の方々に与えた影響

- 普段の生活で行わないような表現を発見することができました。
- 誰でも自由に楽しめ、参加者全員が一体となりボーダレスな環境を作り出すことができた。

引用

- <http://osaka-canvas.jp/archive/project/osc2011/132/>
- <http://shinano-omachi.jp/topics/4880/>



学生発表⑦

活動テーマ	紀伊半島における地域再生の現場に触れる 中山間地域の課題と将来
活動場所	和歌山県日高郡日高川町寒川地区
連携先	和歌山県日高郡日高川町寒川地区、寒川寄合会、生活研究グループ
活動主体	大阪市立大学 COC 事業 2017年度地域実践演習Ⅲ 受講生、その他

1. 活動概要

昨今、過疎化や少子高齢化による問題の改善、取り組みの強化が特に地方において求められている。そこで、地方の中山間地域において、現状を把握し課題を発見するために、和歌山県日高川町寒川地区にて、計3回の巡検を行うことにした。巡見は各自の興味や関心に応じて構成した4班で行った。また、個人的に寒川地区で行われる各種イベントに参加し、地域との密接な関係性を構築した。

2. 年間計画

2017年10月～ 毎週月曜5限にミーティング、座学
同年11月 寒川現地調査（第1回）
2018年1月 寒川現地調査（第2回）
同年2月 寒川現地調査（第3回）
同年3月 寒川現地調査（第4回）
同年6月 寒川ワンダフルナイトに参加

3. 活動成果

昨今の過疎化や少子高齢化による問題が各地で叫ばれている中、地方の中山間地域において、現状の把握と課題の発見に努めた。まず、寒川地区においては、1980年代から現在に至るまでの各集落における1世帯ごとの動きを、区長さんその他の協力によって、住宅地図と現地調査からまとめた。それは、寒川を俯瞰することにつながり、今後何が求められていくかについての土台をつくることのできた。また、「祭り」をテーマとして地域の結びつきを調べたり、実際に「寒川ワンダフルナイト」に参加した。

4. 地域からの評価

--

5. 参考WEBサイト

<https://www.connect.osaka-cu.ac.jp/coc/2017gatsun3/>

6. 活動メンバー

経済学部 2回 岡田 駿
法学部 2回 宮下 凧
生活科学部 2回 水野 怜香

7. 担当教員

祖田亮次（大阪市立大学大学院文学研究科）
水内俊雄（大阪市立大学都市研究プラザ）

8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	大阪市立大学	
所属先・職名	都市研究プラザ教授	
氏 名	水内 俊雄	
連絡先	電 話	
	メー ル	mizuuchi@ur-plaza.osaka-cu.ac.jp

学生発表⑧

活動テーマ	学術的な食品機能性研究と地域をつなげ新産業の創出と地域活性化を行う
活動場所	大阪府寝屋川市、および、四条畷市
連携先	(福) ハニコウム園芸 (社会福祉法人) ほか、四条畷市の協力企業
活動主体	大阪電気通信大学工学部環境科学科 ベリーベリープロジェクト

1. 活動概要

本プロジェクトは、食品の機能性解明を行う研究室（齊藤研究室）に所属する学生・院生が中心となり、大学で得られた学術研究や技術を地域の産業創出に役立て、地域活性化を目指すものである。ターゲットはポリフェノールを多く含むラズベリーに設定しているため、ベリーベリープロジェクトと名付けた。地域との連携・地域との交流、様々なプレゼンテーションを通じて、学術的な成長だけでなく、我々プロジェクトに参加する学生それぞれの人間的な成長と社会的な役割について気づきを促し社会人基礎力をつけることができる。

地域にとっては、大学で行われている最新の学術研究の成果に触れることができ、それをもとに新産業を創出するきっかけができる。具体的な活動内容としては、ラズベリーの栽培から学術的な研究、地域からの依頼によるイベント参加や、学内イベント参加、さらに、全国規模の食品系フェア出展など、多岐にわたる。

2. 年間計画

3月上旬～下旬 ラズベリー植え替え、栽培準備
ここから年間を通して栽培
4年生以上の学生は、それぞれの食品の機能性に関する学術研究を、年間通じて実施
4月上旬 新入生にプレゼン、新しいメンバーの募集
5月下旬から6月上旬 ラズベリーサイダー製造のためのラズベリーシロップ作成
(ハニコウム園芸の協力のもと)
7月初旬 ラズベリーサイダー 完成
7月下旬、8月下旬 オープンキャンパスなどでのサイダー配布、広報活動
そのほか、各種イベントへの参加 (プレゼンテーションなど)
11月中旬 農水省主催 アグリビジネス創出フェアに出展、学術的な成果を含め発表
2月 次年度の栽培準備、次年度の目標・計画を作成、新規リーダーを決めて任命

3. 活動成果

得られた成果として、オリジナルサイダーやクッキーなどの商品の開発ができたことと、我々学生の精神的・社会的な成長ができたことの両方を挙げる。

これまでに、四条畷市、寝屋川市の企業や社会福祉法人、岩手県の震災被災地とのコラボにより、ラズベリー果実シロップを使用したオリジナル塩サイダー「ソルティー・ラズベリー」、クッキーを開発し、販売することができた。これらはまだ市販までは至っていないが、大学や地域のイベント、農水省主催のアグリビジネス創出フェア（東京ビッグサイト）で配布するなどし、少しずつ知名度を上げているところである。

精神的・社会的な成果としては、自信を持てるようになったことが大きな成果だと考えている。とくに、本プロジェクトは、研究室における本格的な研究を軸足にしたもので、自分たちが大学で学んだ知識や研究をしっかりと社会に発信し役立てることができると理解できた。

4. 地域からの評価

2017年10月27日に、四条畷イオンモールからの依頼で、2周年記念イベントのオープニングセレモニーにおいて、我々が作ったソルティ・ラズベリーをウエルカムドリンクとして配布した。

依頼の理由は、四条畷市とのコラボで大学が作った飲料であり、産学連携・地域連携を進めた商品であることを評価されたものである。

配布はリーダー格のメンバーが行い、地域の人たちに説明しながら行っている。その後、時々であるが、本学で販売しているサイダーを購入するために来学してくれる方もいる。

このような依頼も、地域に評価されているものだと考えている。

5. 参考WEBサイト

<https://www.osakac.ac.jp/berry/>

6. 活動メンバー

大阪電気通信大学大学院工学研究科修士課程

2年 西村拓哉（ベリーベリープロジェクト3代目リーダー）

小堀亮

1年 道下僚（ベリーベリープロジェクト4代目リーダー）

西野祐樹

山本祥大

大阪電気通信大学工学部環境科学科

4年 恒川昂平

徳原直希

辻一成

橋本誠也

橋本昌志

多賀大輝

興水駿

3年 澤野 翔哉

谷口 健太

他低学年の学生

7. 担当教員

工学部 環境科学科 教授 齊藤安貴子

8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	大阪電気通信大学	
所属先・職名	研究支援室	
氏 名	今庄 まどか	
連絡先	電 話	072-820-3827
	メー ル	ken-shien@osakac.ac.jp

9. 活動の様子

OECUベリーベリー・プロジェクト



本プロジェクト HP のトップ画面を図1に示した。立ち上げ当初のイベントや学長へのプレゼンの様子の写真が記載されている。

図1. HPのトップ画面

我々のプロジェクトの特徴は、リーダーが引き継がれ、継続性があることで、それが評価されている理由の一つになっている。



図2. 電車内広告



図3. ハニコウム園芸の協力農園

四条畷市内に、数か所の協力農園を獲得し、ラズベリーの栽培を行っていただいている。

岩手県宮古市（津波被災地）のかけあしの会とのコラボで、岩手県の塩と本学のラズベリーシロップを使った塩サイダーを開発した。

ネーミング、ラベル、すべて学生たちが話し合っ



図4. オリジナルのソルティーラズベリー



図5. アグリビジネス創出フェア 2017 出展の様子

2015~2017年、3年連続でアグリビジネス創出フェア（農水省主催）に出展し、「農」にかかわる学生プロジェクトとして発表を行った。

様々な企業の方々や一般の方々と、直接話をする事ができた。

今年5月に、ラズベリーの植え替えと株分けを行ったときのメンバーの様子。

学外の協力者もいるが、学内でも栽培を進めている。



図6. 2018年5月に学内のラズベリー植え替え終了後

当日の風景



受付



ポスター発表の様子 1



司会



ポスター発表の様子 2



口頭発表の様子



来場者から発表者へのメッセージカード



ミニ交流会の様子



交流会・茶話会の様子

地域連携 学生フォーラム 企画メンバー 活動の様子





活動スケジュール（実績）

第1回	ミーティング	5月24日	キックオフ、フォーラム概要検討
第2回		6月13日	会場下見
第3回		6月21日	会場下見報告、広報手法の検討
第4回		7月12日	発表形式の検討 事前交流会の内容検討
第5回		8月9日	フォーラム詳細検討 事前交流会の内容検討
第6回		9月13日	フォーラム詳細検討 事前交流会の詳細検討
第7回		10月2日	事前交流会（当日準備） フォーラム詳細検討
第8回		10月11日	会場設備確認、フォーラム詳細検討
第9回		11月1日	反省会

参加学生メンバー（ミーティングに1回以上参加した学生を記載）

NO	氏名	大学	所属先	学年
1	泉 佑香	関西大学	商学部 商学科	2
2	尾崎 大輔	大阪市立大学	経済学部 経済学科	3
3	影山 泰彪	大阪市立大学	法学部 法学科	2
4	菅 彩乃	大阪音楽大学	音楽学部 音楽学科 ミュージックコミュニケーション専攻	2
5	芝 南々帆	大阪音楽大学	音楽学部 音楽学科 ミュージックコミュニケーション専攻	2
6	高津 地世	大阪音楽大学	音楽学部 音楽学科 ミュージックコミュニケーション専攻	2
7	巽 美寿紀	大阪音楽大学	音楽学部 音楽学科 ミュージックコミュニケーション専攻	2
8	津田 和香	関西大学	商学部 商学科	2
9	中山 一仁	大阪市立大学	法学部 法学科	2
10	堀江 遼	大阪電気通信大学	工学部 環境科学科	2
11	前川 翔平	関西大学	化学生命工学部 化学物質工学科	2
12	的場 南都子	関西大学	文学部 総合人文学科 芸術学美術史専修	2
13	三浦 延樹	大阪市立大学	商学部 商学科	3
14	森 樹久	近畿大学	総合社会学部 総合社会学科 環境・まちづくり系専攻	2

活動の様子

<p>初回キックオフ</p> 	<p>企画メンバーの初顔合わせ。お互いの自己紹介を行いました。 学生フォーラム当日に向けてのコア・スケジュールを全員で確認した後、今年度のテーマや方向性について話し合いました。</p>
<p>ミーティングの様子</p> 	<p>毎回のミーティングにおいて、広報手法、発表形式、事前交流会の内容やフォーラムの詳細について検討を行いました。 発表者と来場者が相互に意見交換ができる場となる様、皆でアイデアを練りました。</p>
<p>発表者事前交流会（10月2日）</p>  	<p>学生発表者が、フォーラム当日をスムーズに迎えられるよう、交流会を開催しました。フォーラムでの発表順をクジ引きで決めた後、自己紹介ゲームや当日の来場者に配布するメッセージカード作りを行いました。楽しい雰囲気の中、学生発表者と企画メンバーの親睦を行いました。</p>

フォーラム当日（10月14日）



学生フォーラム当日を迎えました。午前は口頭発表を、午後からはポスター発表を実施しました。発表の合間に来場者同士によるディスカッションを行い、発表者と来場者の積極的な相互交流の場を設けました。これらの新たな内容はすべて、企画メンバーの発案によるものです。

メンバーの皆さん、お疲れさまでした！



学生企画メンバー アンケート 集計

Q1 この企画について何で知りましたか？

※あてはまるもの1つに○

1. チラシを見て	0
2. 大学の周知で	3
3. 担当教員からの紹介で	4
4. 友達や知人からの紹介で	0
5. 大学コンソーシアム大阪からの紹介で	0
6. その他	0

Q2 企画メンバーに参加しようと思った動機を教えてください。

※あてはまるもの3つまでに○

1. イベントの企画・運営に興味があったから	6
2. イベントの内容・テーマに興味があったから	4
3. 就職に役立つと思ったから	2
4. ボランティアに興味があったから	2
5. 他大学の学生と交流したかったから	6
6. 友達をつくりたかったから	2
7. その他	0

Q3 今回の活動期間や会議の頻度について

※各項目であてはまるものに○

【活動期間】 1. 適切であった	7
2. 適切でなかった	0
【会議回数】 1. 適切であった	3
2. 適切でなかった（・8～12回、・10～15回、・今回の倍ぐらい）	4

Q4 活動を通じた自身の満足度について

※あてはまるもの1つに○

1. 満足できた	3
2. 概ね満足できた	2
3. 満足できない点があった	1
4. 不満だった	1
5. その他	0

【回答した理由】 1. 満足できた

- ・普段ではできない経験をすることができたから。
- ・1回生の時、勉強してきたことが、今回、たくさん活かせてよかったです。
- ・フォーラムを通じて他大学のやっている内容を知ることができた。

【回答した理由】 2. 概ね満足できた

- ・もっと会議に参加したかった。
- ・会議に参加することでコミュニケーションがとれる。

【回答した理由】 3. 満足できない点があった

- ・もう少しまわりをみればと思った。

【回答した理由】 4. 不満だった

- ・自身の実力不足を感じたから。昨年と今年の自分を比べて成長していなかったから。

Q5 今回のイベントの企画・運営を通じて、自分自身を成長させることができましたか？

※あてはまるもの1つに○

1. できた	6
2. できなかった	1
3. どちらとも言えない	0

【回答した理由】 1. できた

- ・ビビリ克服しました。
- ・グループの活動として企画したりできたから。
- ・企画・運営を通して今後のボランティア活動にも役立つと思う。
- ・人前で話すのが苦手だったが、話すことによってそれが少しましになった。
- ・初対面の人とどこまで共有し合って進めていくか、どうしたら交流しやすい環境になるのか、考える事が多くて参考にしたい事が多くあった。

【回答した理由】 2. できなかった

- ・理由を探しに来年再挑戦する。

Q6 今後もこのようなイベントの企画や運営に携わりたいですか？

※あてはまるもの1つに○

1. 携わりたい	4
2. 日程や都合が合えば携わりたい	3
3. 携わりたくない	0
4. どちらとも言えない	0

Q7 この活動を友達や後輩に勧めたいですか？

※あてはまるもの1つに○

1. 勧めたい	7
2. 勧めたくない	0
3. どちらとも言えない	0

Q8 この活動に参加した感想や上記で回答した以外の意見があれば、自由に記入してください。

- ・おつかれ様でした。たくさんのミスが自分の中でありましたが、いい本番をむかえ、また無事に終わったのは本当によかったと思いました！
- ・フォーラムが1回の会だけで終わるのがもったいないと思います。終わった後に、なにかできないかなど、すごくモヤモヤします。来年もやるので、よろしくお願いします。
- ・半年間ありがとうございました。自分自身のためにもすごく頑張っていた気がします。来年も都合が合えばぜひ来たいと思います。
- ・企画メンバー同士の距離感が難しかったです。もっと企画メンバーで交流ができたらいいなと思いました。2年間も関わることができて、毎回違った課題にぶつかって、どう乗り越えていくか、考えるのが楽しかったです！
- ・他大学生と交流できる機会が「地域連携学生フォーラム in 大阪」にはあると思います。

【企画案】

- ・対象：学生
- ・目的：究極の癒し空間をみんなで創る
- ・目標：空き家を活用し、誰もが利用できる書齋を創る
- ・内容：大阪で空き家を活用し、地域活性化を図る。また、学生が集う場を提供し、新しいプロジェクトが日々生まれる。空き家までのプロセスは、クラウド・ファンディングの他に関西大学梅田キャンパスを利用する。

地域連携学生フォーラム2018 in大阪

『学生発表者募集』

日時:2018年10月14日(日)10:00~《入場無料》

事前・事後
交流会もあるよ♪

学生が主体となって
“地域”と共に取り組んでいる
研究活動やフィールドワークを
発表してね♪



出会い × 成長

《場所：近畿大学 実学ホール》



近鉄大阪線「長瀬」駅（近畿大学前）
から徒歩約10分で大学西門。
実学ホールまでは
当日誘導員が案内します。

（JR長瀬駅から西門まで徒歩30分
かかりますのでご注意ください。）



学生・大学院生なら
誰でも参加可能！

《エントリー方法》

募集要項を確認し、
エントリーシートに
必要事項を記入のうえ、
メール添付にて
下記アドレスへ送付して下さい。

chiren@consortium-osaka.gr.jp

募集要項、エントリーシートは
大学コンソーシアム大阪の
ホームページより
ダウンロードしてください。

エントリー締切
8月24日(金)
17時必着

・主催：特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪



地域連携学生フォーラムは、
 会員大学の学生が地域と関わりながら取り組む研究活動や
 フィールドワーク、ボランティア活動等について発表し交流する、
 学生主体のフォーラムを開催しています。
 今回でこのフォーラムも5回目を迎えました。

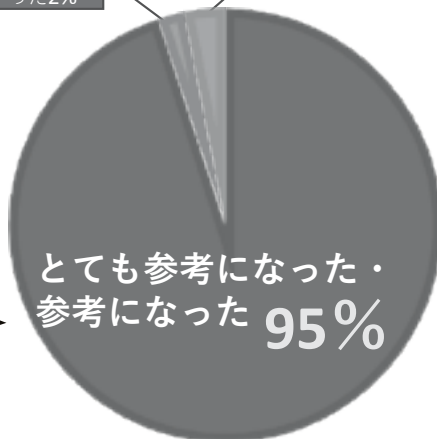
大学生だからこそ自分の目標や夢を共有する発表の場での「出会い」だけでなく、
 その案同士を組み合わせることで新たな地域活性の一步として「成長」していただく
 1日を迎えていただきたいと思います。



地域連携の取り組みの参考になりましたか?? (昨年度アンケート)

あまり参考に
 ならなかった2%

無回答3%



異なる大学の
 各専修やコースで
 それぞれの特色が
 違う視点でわかりやすく
 考えられているので
 面白かったです

交流会で情報交換を
 することができ、
 とても有意義な時間を
 過ごせました。

身になる話が多く、
 地域活性化をするために、
 こんなにも多くの人が
 頑張っているのだと知れて
 良い経験になった。

素晴らしい発表が
 たくさんありました。
 是非一般の方にも
 知ってもらいたいです

《趣旨》

学生が地域と関わりながら取り組む研究活動等について発表を行い、フォーラムを通じて
 他大学の学生と交流することによって地域連携に取り込む意欲の高揚を図ります。
 また、地域との連携を行う上での配慮ポイントやノウハウを会員大学や自治体等で
 共有、また発信することにより今後の地域連携活動の活発化を目指します。



コンソ大阪学生フォーラム
 @ConsoForum2018
 公式Twitterもあります!!
 最新情報はこちらから
 昨年度の活動や
 学生フォーラムの
 裏側が見られるかも?



チラシ作成：
 地域連携学生フォーラム
 2018 in大阪
 学生企画メンバー

〈問い合わせ先〉 特定非営利活動法人大学コンソーシアム大阪
 TEL: 06-6344-9560 メールアドレス: chiren@consortium-osaka.gr.jp
 HP: <http://www.consortium-osaka.gr.jp/>

大学コンソーシアム大阪 検索



学生にしか作れないワケワケ。

生み出す出会いと
掛け合う成長を今ここに！



日時 10/14 (日) 10:00-15:30

場所 近畿大学 実学ホール (開場 9:30~)

近鉄大阪線「長瀬」駅(近畿大学前)から徒歩 約10分で大学西門。

※JR 長瀬駅から西門までは徒歩 約30分かかりますのでご注意ください。

地図 URL: <http://kindai.jp/access/>



学生フォーラム
@ConsoForum2018



定員 150名 (事前予約制) / 参加無料

●開催趣旨●

学生が地域と関わりながら取り組む研究活動等について発表を行い、フォーラムを通じて他大学の学生と交流することによって地域連携に取り組む意欲の高揚を図ります。また、地域との連携を行う上での配慮ポイントやノウハウを会員大学や自治体等で共有、発信することにより今後の地域連携活動の活性化を目指します。

●申込方法● メールにてお申込みください： 10月11日(木)締切

- ・本文には次の内容を記載してください
 - ①氏名(フリガナ含む)、②所属先・職名(学生は大学名・学部・専攻・学年)、③電話番号、④メールアドレス
- ・メール送信先: chiren@consortium-osaka.gr.jp
- ・件名: 「学生フォーラム参加申込」と記載してください

主催: 特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪 <http://www.consortium-osaka.gr.jp/>

詳しくはホームページで！

大学コンソーシアム大阪

検索

発表内容（予定）＊大学五十音順で掲載

近畿門学院大学	学生による親子を対象にした食育	大阪府トー西
大阪市立大学	紀伊半島における地域再生の現場に触れる 中山間地域の課題と将来	和歌山県日高郡日高町
人阪女学院大学、大阪女学院短期大学	玉造地区産街活性化プロジェクト	大阪市中央区
人阪女学院大学	教育インターンシップ：小学校と中学校	大阪市中央区
大阪成蹊大学	美術を介した活動によって地域のボーダレスな関係を築く	大阪市東淀川区
大阪電気通信大学	学術的な食品機能性研究と地域をつなげ 新産業の創出と地域活性化を行う	寝屋川市、四條畷市
摂南大学	伝えよう、星の神秘と科学「星の町☆かたの」 プラネタリウム復活を目指して	交野市
近畿大学	黒川の里山における地域交流を目的とした 古民家カフェの運営	兵庫県川西市



自分たちの目標や夢を共有する発表の場での
「出会い」をきっかけに、新たな地域活性の
一歩としての「成長」へと変えませんか？
当日は、双方向で意見交換をして頂く企画も用意しています。
詳細は会場についてからの楽しみに！

●お問い合わせ先●

特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪
TEL:06-6344-9560
MAIL: chiren@consortium-osaka.gr.jp
HP: <http://www.consortium-osaka.gr.jp/>

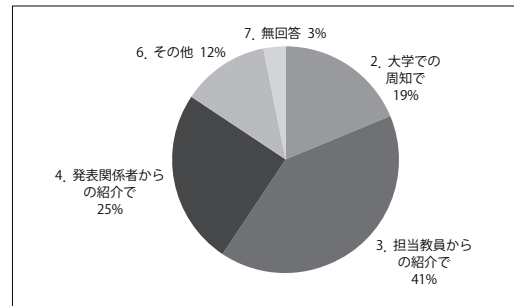
■チラシ作成■

地域連携学生フォーラム2018 in 大阪
学生企画メンバー

地域連携 学生フォーラム in 大阪 2018 参加者アンケート 集計結果

1. このイベントを何で知りましたか

1. チラシを見て	0
2. 大学での周知で	6
3. 担当教員からの紹介で	13
4. 発表関係者からの紹介で	8
5. 大学コンソーシアム大阪のHPで	0
6. その他	4
7. 無回答	1
合計	32



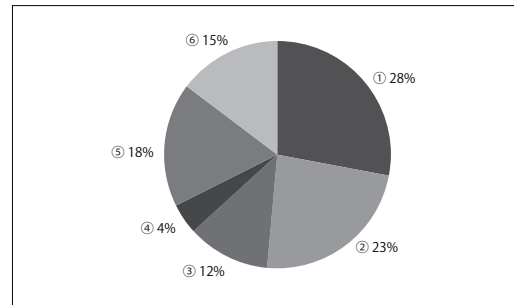
複数回答あり

- * 学生の企画メンバーより 2
- * ASAGAO ML をみて 1

2. 特に関心をもった内容について

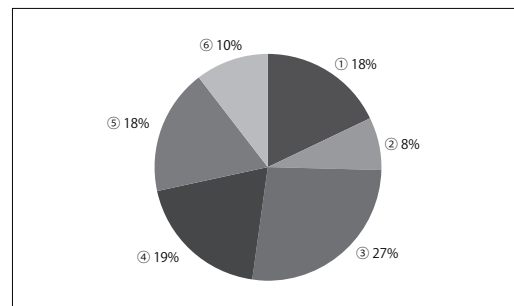
【午前】

①近畿大学「黒川の里山における地域交流を目的とした古民家カフェの運営」	19
②大阪女学院大学・大阪女学院短期大学「玉造地区商店街活性化プロジェクト」	16
③摂南大学「伝えよう、星の神秘と科学「星の町かたの」プラネタリウム復活を目指して」	8
④大阪女学院大学「教育インターンシップ：小学校と中学校」	3
⑤追手門学院大学「学生による親子を対象にした食育」	12
⑥大阪成蹊大学「美術を介した活動によって地域のボーダレスな関係を築く」	10
合計	68



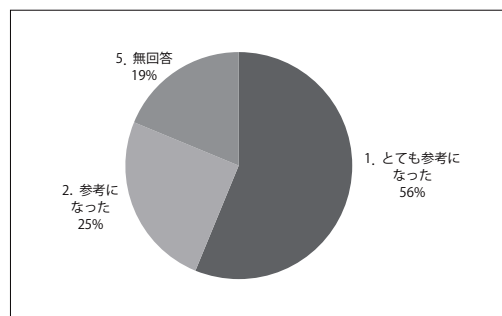
【午後】

①近畿大学「黒川の里山における地域交流を目的とした古民家カフェの運営」	12
②摂南大学「伝えよう、星の神秘と科学「星の町かたの」プラネタリウム復活を目指して」	5
③大阪電気通信大学「学術的な食品機能性研究と地域をつなげ新産業の創出と地域活性化を行う」	18
④大阪女学院大学・大阪女学院短期大学「玉造地区商店街活性化プロジェクト」	13
⑤大阪市立大学「紀伊半島における地域再生の現場に触れる 中間地域の課題と未来」	12
⑥大阪女学院大学「教育インターンシップ：小学校と中学校」	7
合計	67



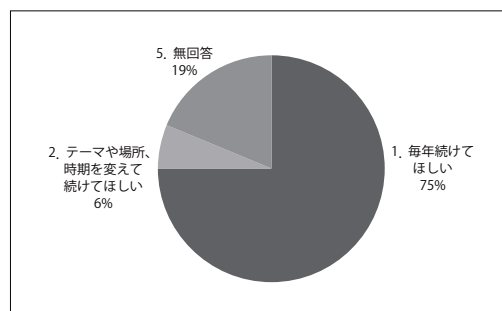
3. 今後の研究や地域連携の取り組みの参考になりましたか

1. とても参考になった	18
2. 参考になった	8
3. あまり参考にならなかった	0
4. その他	0
5. 無回答	6
合計	32



4. イベントの継続について

1. 毎年続けてほしい	24
2. テーマや場所、時期を変えて続けてほしい	2
3. あまり続けてほしいと思わない	0
4. その他	0
5. 無回答	6
合計	32



*どのようなことを希望されますか

時期は同じで開催校を変えて欲しい。
一般の方がより多く参加できるように長期休暇中でも開催してもいいと思う。

*続けてほしいと思わない理由

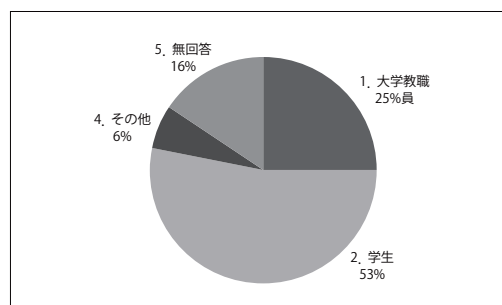
運営上の負担の分散→長く続ける為に

5. あなた自身のことについて

1. 大学教職員	8
2. 学生	17
3. 自治体関係者	0
4. その他	2
5. 回答	5
合計	32

スタッフの知人

1



6. 特に関心をもった発表について（口頭発表）

① 近畿大学 「黒川の里山における地域交流を目的とした古民家カフェの運営」
<ul style="list-style-type: none">・行ってみたいと思った。・プロジェクトの完成度もだけれど真心を感じてとても心に残りました。・私の大学も過疎化の地域と提携しているから。・地域のもつ特徴を活かして活気をとりこもうとしているところ・古民家を再生してください。期待しています。・学生だけでカフェの企画経営しているから。・カフェに行ってみてみたいと思ったから。・地域密着型のプロジェクトで土地をどう PR しようか考えていた。・自分がやっている他のプロジェクトと似ていたから。・古民家をつかってカフェをする目的がすごい。・最近、古民家カフェに興味があったため。・他の古民家カフェとの差別化を考えながらプロジェクトを行っているのが良いと思いました。・地域との持続的な活動が参考になります。・とても楽しそうな活動だと思ったから。発表が上手だった。・カフェメニューが魅力的だと思った。
②大阪女学院大学・大阪女学院短期大学 「玉造地区商店街活性化プロジェクト」
<ul style="list-style-type: none">・クーポンをカレンダーにするアイデアが素晴らしかったです!!・日めくりカレンダーという案が良いと感じた。・私もそういった活動に魅力を感じたから。・新しい試みでみていたのしかった。・日めくりカレンダーのクオリティがすごい。・メディアにとりあげられるほどのすごい功績だと思いました。・地域活性化のプロジェクトで、1つ1つ改善しながらアイテムを作っていた。・カレンダーがとても面白いアイデアでした。・自分の家の近くにも閑散とした商店街がある。・カレンダーというアナログなツールを使った商店街活性化。・日めくりカレンダーをほしいと思ったため。・アイデアとそのコーディネートが素晴らしかった。・6年という長期に渡って活動が続いているので。・企業・商店街・学生の連携が大変だと思った。・クーポン付カレンダーという発想が面白い。
③摂南大学 「伝えよう、星の神秘と科学「星の町かたの」プラネタリウム復活を目指して」
<ul style="list-style-type: none">・参加したいと思う。・授業とかで利用できるの良いと思った。・新しい試みでみていたのしかった。・小学生などにプラネタリウムを見せ、そこでえたデータをマニュアルにし、後進につたえようとしていた。・プロジェクト終了後も、しっかりマニュアルを作成して行政に引き継ぎしようとしている点が良いと思ったので。・交野市との連携と設備費用の使用等どうなっているか？

④大阪女学院大学 「教育インターンシップ：小学校と中学校」

- 大学生と小学生との接する場はこれから貴重になると思ったため。
- 多様性に向かったの取り組み

⑤追手門学院大学 「学生による親子を対象にした食育」

- パワーポイントも衣装もパフォーマンスになっていて中身がより生きていた。
- 子どもたちの食育、食の質を考えたものを提案しているところ
- 子どもたちとのコミュニケーションが大変？だったのでは。
- 実際に市場とも連携しているから。
- 子どもたちに「食」の流通を教えるのは良いと思いました。
- 食育文化を伝えたりすることで日本人の食生活が改善できたらいいなと思いました。
- 丼がおいしそうだった。
- ただの食育だけではなく市場と協力がとても良いと思いました。
- 学生が考える食品が市場に出る喜び等感心があった。
- 子供たちに教えるための工夫がすばらしいと思ったから。

⑥大阪成蹊大学 「美術を介した活動によって地域のボーダレスな関係を築く」

- 応用して利用できそうだ！！
- 美術を介して人と人をつなげているところに惹かれたから。
- 美術を介することで、つながるといのはすごいと思った。
- アプローチの仕方がいいと思った。
- 参加型のゲキは面白いと思った。
- アートを通じてボーダレスな関係を実現できたのはすごいと思ったから。
- 芸術を用いて色々な人々との交流ができていてすごいなと思いました。
- 美術を使ったまちづくり
- 年齢、性別、障害に関係なくできるのが良い活動だと思いました。
- 写真が多めで分かりやすかったから。

その他

- すみませんえらべません。どの企画もすばらしく参加してみたいと思いました。
- 私達は芸術学部ですが地域とつながるという点では同じなので互いにいいところがあれば手本にさせていただきますと思います。

7. 特に関心をもった発表について（ポスター発表）

①近畿大学 「黒川の里山における地域交流を目的とした古民家カフェの運営」
<ul style="list-style-type: none">・現物のコーヒーがあって分かりやすかった。・古民家カフェに行きたいと思った。・積極的に企画をすすめられていてよかった。・学生だけでカフェの企画経営しているから。・自分がやっているプロジェクトと似ていたから。・古民家カフェで他大学とも連携を取ろうとしている所が良い。・実際に炭を見ることができてよかったです。きれいだった。・持続的な活動。・焙煎前後のコーヒー豆の香りの違いを体感できたのが良かった。・実際の焙煎前後の豆や菊炭を観察させてくれたから。
②摂南大学 「伝えよう、星の神秘と科学「星の町かたの」プラネタリウム復活を目指して」
<ul style="list-style-type: none">・プラネタリウムに目をつけたのがすごい。・授業として行っていたものを、のちに自主的に行い続けている。・交野市との特長的な関わり（工学系の専門分野）・小学生の反応を見ながら、いろいろとアクションを変えていった所が良い。・ポスターがシンプルできれいにまとめられていたから。
③大阪電気通信大学 「学術的な食品機能性研究と地域をつなげ新産業の創出と地域活性化を行う」
<ul style="list-style-type: none">・図がわかりやすい！・自分達で一からサイダーを作りあげたのがすごい。・サイダー欲しいと感じた。・まったくゼロの状態からスタートしているのがおもしろい。・自分とはまったく別の分野で興味深い。・学生で商品を開発している点・学科で勉強していることと近いので興味をもったから。・研究を将来的に役立つものとしており、学生の内からビジネスにつなげられるよう行動している。・今後の販売に期待！・食べ物を扱う目的で同じだったため。・勉強したことと重なっていて聞いていて楽しかったです。・ビジネスモデルまで考えられている。・ジュースの色までこだわる物作り。これからの楽しみです。・プロジェクト内容が楽しそうだったから。・電通大×食品という組み合わせが意外だった。
④大阪女学院大学・大阪女学院短期大学 「玉造地区商店街活性化プロジェクト」
<ul style="list-style-type: none">・カレンダーがすごく良かった。・アナログながら独自のものをつくり企画しているところ・実際にカレンダー見れてよかった。・日めくりカレンダーにクーポンをつける発想。・カレンダーがクーポンになっていて町おこしが成功していてすごいなと思いました。・1つのアイテムだけでなく、さらなる発展を視野に入れていた。・カレンダーがとても面白いアイデアでした。・カレンダーを利用してみたいと思いました。

- カレンダーを毎年発行する等、継続した活動を行っている所が良い。
- 実際のカレンダーは想像していたよりもとても良いものでした。
- 経済的効果まで出せるようにがんばってほしい。学生の店舗の期待。

⑤大阪市立大学 「紀伊半島における地域再生の現場に触れる 中間地域の課題と未来」

- 地域活性化、すごくいいと思います！
- 自分の出身が和歌山で興味深かった。
- 和歌山は距離的なハンディがあるので何か工夫して活気をお願いします！
- 授業からプロジェクトにいくという考えをもっていたので自主的でよかった。
- 発表がわかりやすく理解しやすかった。
- 今後の活躍が期待できると思ったから。
- 和歌山の過疎化はすごく問題になってきているため興味深かったです。
- 緻密な調査とそれを反映している活動。
- 発表がわかりやすかった。

⑥大阪女学院大学 「教育インターンシップ：小学校と中学校」

- 口頭発表では聞けなかった教育現場のことを聞いた。
- 子どもたちと国籍をこえた関わりをもてるのはすばらしいと思ったから。
- 海外の子どもたちに日本語を教えたり学校の勉強の補助をしているところがすごく興味がわきました。
- 小・中学生の多様性への対応の工夫、改善の可能性
- 自分も教職をとっているから。
- 色々な国の文化、学習を修得してほしい。

8. フォーラムの感想や意見

ありがとうございました！
発表がとても参考になった。
色々な大学の方と、交流ができてよかったです。
なごみやすいように運営と雰囲気づくりが良かったです。
少しタイトでしたので、発表方法は工夫してもと思います。
いろんな話をきけてとてもよかったです。
他大学での活動を聞いて、それぞれの課題へのアプローチの仕方などの意見交換もできて、すごく有意義であった。
他大学の方とのつながりもできて、よい機会になった。
他大学の学生と交流できる貴重な機会がとても良いと思った。
他の大学との交流ができてよかったです。
ポスター発表、新しい試みでよかった。今後も改善・充実して続けてください。
すごくてのしく、参加した甲斐がありました。
他大学の活動を知ることができた、ありがとうございました。
今回は近大で、環境のすごさにびっくりしました。グループに入れていただいたことで、身近に若い学生の方の意見を聞くことができました。
学生主体のイベントとなり、より良くなったと思います。
いろんな活動を知ることができて、とても良かったです。工学系の地域とのかかわりを知りたいと思いました。
今回参加させていただき、学生は大学間での交流のニーズがあるので、大学コンソーシアム大阪で今後も交流フォーラムを開催してほしいと思います。
各大学、授業として取り組んでいるところもあれば、ゼミや有志のメンバーなど色々な形があり興味深かった。継続できる場所は教員の力や先輩から後輩への橋渡しがうまくできている印象をうけた。
毎年新しい取り組みがあれば参加したいと思う。
他大学に交流する機会があまりなかったので参加してよかったと思う。

9. 学生企画メンバーへのメッセージがあれば、ご記入ください。

お疲れさまでした！がんばってください！
おつかれさまです。
大変でしたね！良かったです！
来年もがんばってください。
みなさん、お疲れ様でした。みなさんのおかげですごく楽しく活動させていただきました。ぜひ来年も参加したいです。
スムーズな進行ありがとうございました。
企画メンバーの方たちはとてもフレンドリーで事前の交流会のときから楽しく接していただけて、とてもリラックスして本番も過ごすことができました。本当に有難うございました。お疲れさまでした。
また何かあればさそってください。
大変お疲れ様でした。全部が思い通りにならないことも受け入れてトラブル無く運営できたことに自信を持ってください。
おつかれさまでした。
ごくろう様でした。メッセージカードはおもしろい企画です。
朝早くから準備がんばってますね。お手洗いまでの道案内もありがとうございました。
運営側は大変だと思います、感謝しております。
今回のイベントはとても楽しかったです。事前交流会も楽しかったです。
企画運営おつかれさまでした。メッセージを「木」にはりつけていくアイデアはとても良いなと思い、マネしたいなあと思いました。
ご苦労様です。でもとても良い経験をされていますね。これからもがんばって下さい。
このイベントに向けて下準備からご苦労さまです。
内装もおしゃれでスタッフの方も話しやすく良かったです。おつかれさまでした。
運営お疲れさまです。大変だと思いますが、今後に活かせる貴重な体験だと思います。
長きにわたって準備くださり、ありがとうございました。自分も頑張っって次につなげていきたいです。



特定非営利活動法人
大学コンソーシアム大阪

大阪市北区梅田 1-2-2-400 大阪駅前第2ビル4階
TEL : 06-6344-9560 FAX : 06-6344-9561
MAIL : chiren@consortium-osaka.gr.jp (事務局 地域連携担当)
URL : <http://www.consortium-osaka.gr.jp/>